

キタのまちのニュースレター

大淀から始まる

新たな音楽祭!



2000年から始まった「天満音楽祭」。北区民センターをはじめ、北区内のさまざまな場所で、多彩なジャンルのステージが楽しめることでおなじみです。

そんな「天満音楽祭」が協力する新イベントが、大淀コミュニティセンターで開催決定!!
「天満音楽祭」の数ある歴史の中でも大淀コミュニティセンターのステージは初!
一体どんな催しになるのか…今回はその内容を運営担当の方にご紹介いただきます。

こんにちは!『DISCOVERY MUSIC』運営担当です!

この度、20~30代の若手メンバーを中心に『音楽のちからで大阪北区域を活性化させたい』というテーマの元、若年層を中心に人気のアーティストを迎え『DISCOVERY MUSIC』という音楽フェスを開催することが決定致しました。この音楽フェスは「天満音楽祭」協力の元、天満音楽祭のファン層とはまた違った若い人たちが音楽を通じて地域をさらに盛り上げていくことを目指しています。

今回初開催となりますが、TikTokフォロワー 50万人を抱えるKAY-I氏(from ROYALcomfort)や著名なアーティストをはじめ、新進気鋭のプロミュージシャンの参加が決定しています。

私たちは地域の方たちに、クオリティーの高い音楽に接することができる機会を提供し、日々の生活に彩りをもたらしたいと考えています。今回はたくさんの方のご協力があり、「大淀コミュニティセンター」にて開催致します。是非地域の方にもご参加頂き、盛り上がるイベントにしていきたいです。



DISCOVERY MUSIC

日時: 2023年8月26日(土)

[1部] OPEN 11:30 / START 11:50

[2部] OPEN 16:30 / START 16:50

会場: 大淀コミュニティセンター

〒531-0074 大阪府大阪市北区本庄東3丁目8-2

料金: [1部] 前売 3,000円 / 当日 3,500円 (ドリンク代別)

[2部] 前売 4,000円 / 当日 4,500円 (ドリンク代別)

予約: https://t.livepocket.jp/e/discovery_music_0826

出演: 沖田彩華 (MC)

[1部] Fancy- / HIGH SPY DOLL / Duality / Relive / LOVISH /

Fortuness / da-gashi☆ / KUKKA / イロハサクラ / Vress

[2部] 幻影ユートピア / Txx∞L / YUKI /

Place Order / SAWAGE

ゲスト: KAY-I (ROYALcomfort)

協力: 天満音楽祭実行委員会

共催: 一般財団法人 大阪市コミュニティ協会 北区支部協議会

制作: 株式会社ファースト / 合同会社押忍

お問い合わせ: 合同会社押忍 (info@osu-llc.com)

※入場は整理番号順です

※出演者のキャンセルに伴う返金は致しかねます

※チケット購入間違いによる返金・自己都合による返金は致しかねます

※OPEN / START時間は変更になる可能性があります

新コーナー予告！ みなさまの声を募集します

新コーナーのお知らせです。次号よりみなさまの声を「北区小話」として掲載したいと考えております。

実は、本誌は発行から2年が経ちます。その間イベント情報をはじめ、地域活性に励む方々のエッセイ、都道府県事務所を巡る“キタ歩き日本旅”、過去から大阪の街を紐解く“浪花百景歳時記”など、多方面から北区の魅力を発掘し発信してきました。しかし、もっと身近なニュースを届けたいという思いがあり、それが「北区小話」という形になりました。

そのきっかけとなったのは世間話です。地域の人と世間話をすると「新しいお店が近くにできた」「きれいな花が咲いている」など、自分では気づかない地域の情報が流れてきます。逆に、自分しか気づいていないこともあるものです。世間話の中には、“その人だけの地域の話”で満ちていました。そこでニュースレターにも、個人的な地域のニュースを掲載することで、新たな視点や気づき、話題のきっかけづくりをしていただけるのではないかと考えています。

“北区で暮らしていて気付いたこと”“北区の思い出の場所”などなど、ぜひ北区在住・在勤の皆さんから、いろいろなお声をお寄せください。北区民センターや大淀コミュニティセンターに投稿箱を設置するほか、WEBからのご投稿も受付予定です。みなさまのご投稿をお待ちしております。

〔必須事項〕

題名／本文(140～230字)／お名前／ペンネーム／郵便番号／住所・都道府県／連絡先電話番号／メールアドレス／年齢／性別／職業

〔注意事項〕

- 他媒体との二重投稿、ブログやフェイスブック、ツイッターなどネット上で公開したものの投稿はご遠慮ください。
- 原稿はお返ししません。採否の問い合わせもご遠慮ください。
- デジタルメディアにも収録します。

掲載分の著作権は大阪市コミュニティ協会に帰属します。ただし、投稿者本人の利用は妨げません。

防災感覚をもっと身近に

(一財)大阪市コミュニティ協会 都市コミュニティ研究室
多田・堀・李

なじみのない言葉ですが「防災ロゲイニング」って聞いたことありますか？

ロゲイニングは、もともと地図を手元に各チェックポイントを巡る「ゲーム感覚の遊び」のことです。そこに「防災」が冠されているということは…そうなんです。防災をキーワードにしたゲーム感覚の「まち歩き体験型」の新しい試みです。

「時間がない」「他に予定があるから」と「防災」を後回しにされている方も多いと思います。事実、大阪の防災訓練・参加率は全国的に見て高くありません。そこに新しい風を吹き込めるかもしれない。それが「防災ロゲイニング」への期待です。

防災訓練への参加率はシニア層が多く20～30代が少ないという傾向があるようです。しかし、災害は世代に関係なく多世代を巻き込みます。日中夜間を問わず外出機会の多い若い層、そして多世代にこそ、ロゲイニングによる「防災」手法が有効かもしれません。

近年、都市部での開催が増えている防災ロゲイニングでは、チェックポイントの「避難場所」に併せ、観光名所なんかも組み込みます。大川沿いや中之島エリアでは、防災に光を当てた(表現は適切でないのかもしれませんが)観光プログラムになるかもしれません。

弊社では今年5月、ある大学とコラボして「防災ロゲイニング体験」を企画し実施しました。当日は防災活動実習の大学生、地域の防災リーダーからも参加し、地域の皆さんとコラボして、防災ロゲイニングを“楽しむ”実証を行いました。

あえて「楽しむ」と表現したのは、防災が「苦役」ではなく、前向きに『楽しみ』、多くの人とひとつが繋がって『共有すべきもの』であってほしいと願っているからです。実施当日の反省点は、チェックポイントにしていた津波避難ビルのピクトグラム(デザインされた表示物)がわからず、違うピクトグラムをチェックポイントと勘違いしてしまいゲーム(得点)にならない例があった事。ただしそのことで、「避難場所を誤れば命を失う」という好例になり、「防災・避難」について考えるいい機会になりました。

避難場所の熟知だけではなく、災害遺構や災害記念碑のチェックポイントも、防災の学びにとっても役立ちました。「知っていた」はずのことが、「そうでもなかった」と、地区に暮らす皆さんから、思わず声が上がりました。それは、「自身の校区」から出ればなおのことでした。

北区には世界最大といわれる地下街もあります。だからこそ、常日頃から防災ロゲイニング的な感覚を磨き上げ、身を守る意識を高めておくのは必須です。皆さんはどのようにお考えですか？



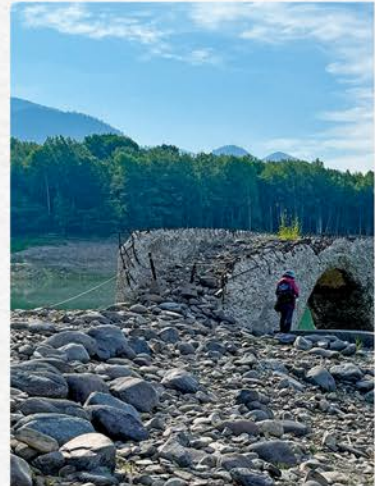
北海道
の巻

キタ歩き日本旅

「大阪駅前ビル」には、47都道府県のうち約半数にもなる日本全国の「道府県事務所」がオフィスを構えています。少し大きさに表現すると『日本が大阪駅前ビルに勢ぞろい!』の風情です。SNS万能の時代ですが、全国各地の旅や物産の様子が「人肌感覚」で知ることができます。この連載は、旅する感覚で北区の大阪駅前ビルを訪ね教えていただいた情報です。大阪駅前ビルの歴史も魅力的!「わが町の旅」としていかがでしょうか。



雄大な大雪山を背景に従えた幻想的なタウシュベツ橋



近づいて見る…タウシュベツ橋の「手触り感」

前号までに沖縄・九州のすべてを巡りました。今度は逆に、北から日本列島を南下することにします。もちろん最初は「デッカイどー」の北海道大阪事務所。観光担当の金宇治さんに「大好きな北海道の風景」をお尋ねしてみました。

北海道の風景はどこをとっても雄大で甲乙つけがたいのですが、「日本の歴史・雄大さ・ほのぼの感」の三拍子がそろった、上士幌町の「タウシュベツ橋」はおススメのひとつです。この橋梁は、1937年に作られた旧国鉄士幌線のアーチ橋です。その後、ダム建設により1955年からは放置されてきました。発電目的のダム湖の水位変動により水没して見えなくなる時期があり「幻の橋」とも呼ばれています。

えっ!こんなに幻想的なんですね!(ビックリ!!)

水没期にも一部は見えますが、是非とも渇水期に訪ね全容を見てほしいと思います。詳細、NPO法人ひがし大雪自然ガイドセンター(eメール:shizen@guidecentre.jp 電話01564-4-2261)にアクセスしてみてください。有料ガイドツアー

も実施されています。

こんなに雄大なものではありませんが、大阪市北区にも同様の「ものごと」を持つ橋があります。市役所北側の堂島川に架かる水晶橋です。1929年、堂島可動堰(小さなダム)として完成したこの橋は、とても凝ったデザインの可動堰でした。2002年、可動堰部分は撤去されますが一部に可動堰としての名残も確認できます。

大阪のど真ん中にも、そんなところがあるんですね。でも、ここのすごいところは「朽ちてなくなるかもしれないコンクリート橋をぜひ見に来てほしい!」と、NPO法人を立ち上げ、自力でガイドツアーし、さらには『模型で遺そう! 幻の湖底橋梁タウシュベツ橋』というクラウドファンディングを成功させ、それらを着々と具体へと導いていることです。

そのような試みのすべては、雄大な大雪山の森林を切り出すために作られた鉄道(国鉄士幌線)の、代表であるタウシュベツ橋を知ってもらうことで、自然に生かされてきた人々の暮らし、戦争の歴史、そして自然のたくましい回復力などが学べ

る格好の地域資源だと気づかれました。いまではタウシュベツ橋を見るツアーは、地域理解と自然の大切さを伝えるエコツアーと自負しています。そのようにお聞きしています。つまり、「地域愛」からもたらされた地元民の行動から、すべてが成り立っているところです。

まいりました! 中之島周辺では「常設的なガイドツアー」を実施する仕組みは、まだありませんが、ないならないで、私たちの団体でも考えてみたいと思います。

そうですね、大阪の地域愛が見て取れるようなガイドツアーが中之島にあったら、とても楽しいでしょうね。

タウシュベツ橋に学び、そうしてみたいと思います。どうもありがとうございました。



水晶橋(大阪公式観光情報より引用)
写真左側、川中の防波堤みたいなものが可動堰の名残

浪花百景歳時記

大阪大学総合学術博物館
研究支援推進員

波瀬山祥子

中之島のシンボルといえは…

第六景 蛸の松 夜の景 国員画

落語では、人通りの少ない寂しい場所とされる蛸の松。奇怪な幹や垂れ下がった枝は、夜半に通ると妖怪にも見えたでしょう。今は美術館や大阪大の芸術センターで賑やかなこの界限、どんな街へと化けますやら。

道行ナビゲーター 大阪大学名誉教授 橋爪節也

静まりかえった深夜の中之島。蔵屋敷の壁がつづき、提灯を持つ男が松の下で振り返って、舟入橋の上の満月を見あげています。月明かりで、松の枝葉もシルエツトとなり、前を流れる堂島川に影が映り込みます。「おつ、これが名高い蛸の松か！」。左側が画面から切れていますが、根元だけで大人一人分はある巨木です。絵としては、全体を黒の色調で整え、屋敷は透視遠近法でパースをきかせて、右上と左下の区画された部分には鮮やかな赤と黄色の色面を、川面には水色から青への爽やかなグラデーションを施して、大胆でメ

リハリある画面に仕上げています。

「蛸の松」があったのは、大阪帝国大学医学部跡地、現在の大阪大学中之島センターのあたりで、当時は広島藩、そして西隣には久留米藩の蔵屋敷がありました。戦国時代に福島正則が植えたとき、「四方に枝を垂らす姿がまるで蛸のよう」で、この名がついたそうです。『浪花の賑ひ』（安政二年刊）には「ゆうべあしたひと月の夕、雪の朝には、一しほながめの眺望なれば、雅俗きそひて、是を賞す」と四季折々に美しい姿を見せるシンボリックな木として愛されたことが記されます。『摂津名所図会大成』（安政二頃成立）や初代長谷川貞信（一八九〇〜一八七九）の「浪花百景」には松の全体像が描写されており、荘厳な姿を偲ぶことができます。これらの図と比較したとき、国員は松の一部のみを切り取ることで、巨大さを表すことに成功したといえるでしょう。松は明治十年代に枯れてしまいましたが、二〇〇四年に、大阪教育大学附属天王寺小学校の同窓会により、対岸の堂島川右岸に二代目の蛸の松が植えられました。さて、この付近は、二〇二一年に大阪中之島美術館が開館、今年四月には大阪大学中之島センターがリニューアルオープンして、音楽や演劇のできるスタジオや展示室も設けられ、芸術拠点として動き出そうとしています。これらの動きをふまえ、今年九月九日（土）にシンポジウム「大阪的って何？水辺から考えるアート・おおさか・大阪暮らし」（於：中之島会館・参加無料）を開催予定で、浪花百景も交えながら、過去・現在・未来の大阪の美術「感」、コミュニティのあり方について考えます。みなさまのご参加をお待ちしています。



編集後記

夏になると夏休みの宿題を思い出します。しかし調べてみると、昨今の小学校では夏休みの宿題をなくしているところもあるようです。代わりに自分で目標を決め、取り組むよう呼びかけるとか。確かに、自分で決めた自由研究や読書感想文などは、楽しかった記憶があります。大人になると興味のあることを掘り下げる暇もなくなる時がありますが、そんなときこそ自分の好きを再確認するために、自由研究などをすると面白いかもしれません。

■編集・発行：北区民センター・大淀コミュニティセンター・都市コミュニティ研究室

■指定管理者：一般財団法人大阪市コミュニティ協会

■発行月：7月・10月・1月・4月の各月下旬発行

北区民センター 〒530-8401 大阪市北区扇町2-1-27
☒ kitakumin-center@abelia.ocn.ne.jp

大淀コミュニティセンター 〒531-0074 大阪市北区本庄東3-8-2
☒ oyodo-comini@abelia.ocn.ne.jp